

## 実践報告

## 語用能力の評価における比喩皮肉文テストの有用性について

岩田 みちる\* ・橋本 竜作\*\* ・柳生 一自\*\*\*  
 山下 公司\*\*\*\* ・室橋 春光\*\*\*\*\* ・関 あゆみ\*\*\*\*\*

## Usability of the metaphor and sarcasm scenario test for pragmatic skill evaluation

Michiru IWATA, Ryusaku HASHIMOTO, Kazuyori YAGYU  
 Koji YAMASHITA, Harumitsu MUROHASHI, Ayumi SEKI

## 要 旨

近年、語用能力への関心が高まっている。2013年に改訂されたDSM-5でも語用能力の未熟さを中核的症候とする社会的（語用）コミュニケーション症が規定されたが、語用能力の評価方法は確立していない。今回、我々は語彙量や言語的推論力が高いにも関わらず、語用能力の未熟さが疑われた事例に対し、比喩皮肉文テスト（MSST）を用いて評価を行い皮肉理解の困難を認めたが、比喩理解は良好であった。本児の言語反応から、MSSTの比喩理解は言語能力の寄与が高く、語用能力の評価には皮肉課題が有用である可能性が示された。語用能力の未熟さがある場合、間接表現を避けるなど学習面以外での配慮が重要であると考えた。

キーワード：語用能力、皮肉理解、比喩理解、言語理解

## 1. はじめに

日常生活において、婉曲な表現は良好な人間関係を保つために多用されている。比喩や皮肉で遠回しに表現することで直接的な対立を回避するのである。このような言語表現は語用理解を必要と

する。語用の困難は教科学習など評価される課題に反映されづらいが、日常生活のコミュニケーションにおいて重要である。

語用能力に未熟さがあると他者の意図を理解することが困難になるため、対人面のトラブルなどに発展する恐れがある。特に思春期以降は周囲と

\*北海道大学大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター 研究員

\*\*北海道医療大学心理科学部言語聴覚療法学科 准教授

\*\*\*北海道大学大学院医学研究科児童思春期精神医学講座 特任助教

\*\*\*\*北海道大学大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター 学外研究員

\*\*\*\*\*北海道大学大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター 学外研究員・名誉教授

\*\*\*\*\*北海道大学大学院教育学研究院 准教授

の関係形成・維持におけることばの役割が大きくなるため、環境への適応に重要である(古池, 2009)。

自閉スペクトラム症では語用能力に弱さがあるとされてきた(神尾, 2007)。さらに、2013年に改訂されたDSM-5精神疾患の分類と診断の手引(American Psychiatric Association: APA, 2013 高橋他訳 2014)では、語用の困難を中核的症狀とする「社会的(語用論的)コミュニケーション症」が規定された。具体的な語用困難として、「明示的に示されていないこと(例:推測すること)や、字義通りではなかったりあいまいであったりする言葉の意味(例:慣用句、ユーモア、隠喩、解釈の状況によっては複数の意味をもつ語)を理解することの困難さ」(APA, 2013 高橋他訳 2014, p.46)が挙げられている。しかし語用の定義はコンセンサスがなく評価が主観的になりやすいため、語用能力の標準的な指標は確立されていない(神尾, 2007)。

これまで皮肉や冗談の理解困難は研究として検討され(Happé, 1994)、広汎性発達障害日本自閉症協会評定尺度などのスクリーニング質問紙に項目として含まれてきた。しかし直接的に語用能力を検討する検査は少なく、標準化されたものはない。日本版ウェクスラー児童用知能検査第4版(WISC-IV)や日本版K-ABCII(K-ABCII)など一般的に使用されている知能・認知処理検査は語彙・知識量や言語的推論力などの言語能力を調べるのに役立つが、語用能力は検査項目に含まれていない。このように知能検査は語彙量などの言語能力の評価は可能であるが、語用能力の困難を見逃す可能性が指摘されている(古池, 2009)。また学齢版言語・コミュニケーション発達スケール(LCSA)は「対人文脈」として語用能力に関する項目を含むが、問題数が少なく、対象年齢も小学校1年生から4年生と低い。

今回、我々はWISC-IVによって測定された言語能力が良好だが、語用理解に未熟さが疑われる事例を経験し、語用能力を検討するために比喩・皮肉文テストを実施した。テストに対する言語反

応と、そこから示唆された検査の有用性について述べる。

## 2. 事例

小学校5年生のA君。本人の相談内容は書字困難、母からは学習への拒否感と自信の無さであった。

幼少時から身体接触の拒否や偏食が見られた。小学校の通常学級に進学したが、1年生から鏡文字など学習面の困難が認められた。小学校2年生で友人とのトラブルによる退室が増え教育機関に相談し、小学校3年生で某病院にて注意欠陥多動性障害、協調性運動障害と診断された。

小学校3年生から通級指導教室を利用しはじめ、当支援室へ来談した小学5年生の時点でも継続していた。通級指導教室と同時期にA支援室へ相談し、社会性に焦点を当てた支援を受けていた。その後、徐々に通常学級での退室や学習への拒否感、友人とのトラブルも減少した。しかし小学校4年生から再び通常学級を退室するようになり、「自分なんて」と自分を卑下するようになった。当支援室に相談時は学校への行き渋りも見られた。

A支援室で小学校5年生時にWISC-IVを受けた結果、指標得点間のアンバランスさが認められた。言語理解は非常に高い水準、知覚推理は平均の上の水準、処理速度は平均水準だが、ワーキングメモリーは低い水準であった。知的機能の中心的な能力(GAI)は高く、言語による思考力、推論力は良好であると考えられた。A支援室では衝動性や対人関係の困難に加え、音韻意識の弱さを起因とする読み書きの弱さを疑われた。学習面の困難による学校への不適応が疑われ、当支援室を紹介された。なお、本稿の掲載にあたっては事前に原稿を読んだ保護者から同意を得ている。

### 2-1. 所見

初対面だが最初から親しげな話し方で、時折笑顔を見せながら質問に流暢に答えた。視線は合い、発話量・使用語彙も豊富で言語能力の高さを伺わ

せたが、会話はやや一方的であった。会話中も体をソワソワと動かしており、話題の急な切り替えがあるなど落ち着かない様子が見られた。

## 2-2. 読み書き能力と文法能力について

小学生の読み書きスクリーニング検査（以下 STRAW）（宇野・春原・金子・Wydell, 2006）、音読検査（稲垣, 2010）、小児版構文検査（柳生・橋本・岩田・下條・室橋, 2015）を実施した。

STRAW（宇野他, 2006）の小学校5年生を対象とした課題のうち、10問を実施した。検査者が口頭で提示した単語を漢字で書くよう求めたが、正答は1問で漢字書字は困難であった。なお、STRAWの小学校5年生を対象とした課題で使用される漢字は小学校3年生で学習したものであり、漢字の難しさが顕著であることが示唆される。

音読検査（稲垣, 2010）では、単音・非単語・単語の音読時間が学年平均と比較して2標準偏差を大きく上回り、音読速度は顕著に遅かった。しかし小学校3年生で通級指導教室にて実施された音読検査（稲垣, 2010）では、すべての課題で学年平均（1標準偏差以内）であり、読みの遅さは認められなかった。小学校3年生時と比較して、小学校5年生では単文以外の読み時間が1分から2分ほど延長していた。

読み困難の背景を検討するため、音韻能力を調べた。音韻削除課題とスプーナリズム課題の結果、音韻削除課題は「ろ」を「の」と聞き間違えるなど子音の聞き間違い以外、顕著な問題は見られなかった。3モーラ単語を用いたスプーナリズム課題では、10問中7問正答し、音韻能力に顕著な困難は認められなかった。

文法能力は、小児版構文検査（柳生他, 2015）によって能動態・使役態・受動態における格助詞の使用、態変換の産出、文の理解を検討した。その結果、本児はほぼ全てに正答し、文法能力には問題がなかった。なお、いずれの課題も緊張が強く、検査ごとに休憩を要した。

## 2-3. 語用能力について

### 2-3-1. 比喩・皮肉文テスト（MMST）

語用能力に困難がある人は、言葉を介したコミュニケーションが重要になる思春期から環境への適応も困難になる可能性が指摘されている（古池, 2011）。本児の学校での不適応の増悪の背景に、コミュニケーションの困難がある可能性も考え、語用能力を検討することとした。本事例では、Adachi, Koeda, Hirabayashi, Maeoka, Shita, Wright, and Wada（2004）安立・平林・汐田・鈴木・若宮・北山・河野・前岡・小枝（2006）によって作成された比喩・皮肉文テスト（以下 MSST）を実施した。

このテストは比喩・皮肉の理解を検討するために作成された。課題は比喩・皮肉が各5問で、テスト文は場面状況（前提条件）と発話から構成される（表1）。文に含まれる語彙や文型は小学校1年生～3年生の教科書から選出されている。各問には選択肢が5つあり、皮肉問題には字義通りの解釈による誤答選択肢も設けられている（例：問題4 騒がしくしている子ども達に対して、「たいそうおとなしいお子さん達ですこと」という大人の発言に対して、大人が子ども達のことを本当に「おとなしい」と思っている、といった誤選択肢が用意されている）。

なお、本児は読みの遅さや注意の困難が疑われたため、テストの実施方法は一部変更した。検査問題（問題文・選択肢）は1問ずつ視覚提示し、更に問題文をすべて音声でも提示した。問題文を読み上げる音声の韻律・読み手の表情によって比喩・皮肉の理解しやすさが変化すると予想されたため、問題文はスタッフ以外の女性が朗読した音声を録音して用いた。なお、音声は過度な感情表現や平坦な言い方を避け、自然な読み上げになるようにした。注意の偏りによる誤答を回避するため、選択肢は検査者が指さしをしつつ読み上げた。回答には制限時間を設けなかった。

表1 比喩皮肉文テスト (MSST)

安立他 (2006) より引用

次の文を聞いて、その答えとして一番よいと思うものを選んで下さい。

- 1) 隣のお姉さんは、いつもきれいにお化粧をして出かけます。それを見た私の弟は、「お姉さんはお化粧で化けることができるんだね。」と言いました。  
弟は隣のお姉さんのことを  
ア) お化けになったと思いました。  
イ) たぬきに化けたと思いました。  
ウ) 嫌いになりました。  
エ) 別人のようになったと思いました。  
オ) わかりません。
- 2) お母さんが家に帰ってみると、脱ぎすてられた次郎の洋服が部屋中に散らばっていました。それをみてお母さんは「次郎はいつもきちんとしているわ。」と言いました。  
お母さんは次郎のことを  
ア) きちんとしている子どもだと思っています。  
イ) だらしないと思っています。  
ウ) 男の子だと思っています。  
エ) お風呂に入ったと思っています。  
オ) わかりません。
- 3) サッカーをやらせたら、この学校で太郎の右に出る人はいません。  
太郎は  
ア) サッカーが一番じょうずです。  
イ) サッカーが一番へたです。  
ウ) みんなの右側にすわっています。  
エ) サッカーをしようと思いました。  
オ) わかりません。
- 4) 今日は家族みんなでレストランに行きました。太郎と次郎は食事中も大はしゃぎでした。すると隣の席のおばさんが「たいそうおとなしいお子さん達ですこと。」と言いました。  
おばさんは太郎と次郎のことを  
ア) 行儀が悪いと言っています。  
イ) おとなしいと言っています。  
ウ) かわいいと言っています。  
エ) 子供だと言っています。  
オ) わかりません。
- 5) 警察官は「犯人をしばらく泳がせておこう。」と言いました。  
警察官は犯人を  
ア) 海に連れて行って泳がせようとしています。  
イ) 友達だと思っています。  
ウ) 自由にさせようとしています。  
エ) プールに行こうと誘っています。  
オ) わかりません。
- 6) 三郎の部屋は紙くずだらけで、すわる場所もない状態でした。その部屋に入ったとき花子は「いつもきれいにしているのね。」と言いました。  
花子は三郎の部屋を  
ア) 明るいと思っています。  
イ) 狭いと思っています。  
ウ) 散らかっていると思っています。  
エ) きれいだと思っています。  
オ) わかりません。
- 7) 五郎はリレー競技でいつも一番になります。太郎は五郎がごぼう抜きをするのを見て「ほら、五郎くんはまるでチーターだ！」と叫びました。  
太郎は五郎のことを  
ア) チーターだったと言っています。  
イ) ハンサムだと言っています。  
ウ) 足がとても速いと言っています。  
エ) ごぼうを抜いていると言っています。  
オ) わかりません。
- 8) おじいさんの家の庭は草ぼうぼうでした。庭に入ってきたおばあさんは「まあなんてきれいな庭なこと！」と言いました。  
おばあさんはおじいさんの庭を  
ア) きれいだと思っています。  
イ) 美人だと思っています。  
ウ) あれはてていると思っています。  
エ) 広いと思っています。  
オ) わかりません。
- 9) おばあさんは、私の赤いホップを見て「リングみたい。食べちゃおうかしら。」と言いました。  
私はこう思いました。  
ア) おばあさんはリングが好きです。  
イ) おばあさんはリングを食べたがっています。  
ウ) おばあさんは私のほっぺを食べたがっています。  
エ) おばあさんは私をかわいいと思っています。  
オ) わかりません。
- 10) 清子は、ボロボロになって穴のあいている私のクツを見て、「ずいぶんと素敵なおツツですね。」と言いました。  
清子は私のクツを  
ア) 新しいと思っています。  
イ) 素敵だと思っています。  
ウ) みすばらしいと思っています。  
エ) 涼しそうだと思っています。  
オ) わかりません。

## 2-3-2. 結果

検査の所要時間は15分であった。MSSTの検査成績を表2に示す。

本児の皮肉問題成績は5問中5問不正解で、皮肉の理解が特異的に困難であった。これは安立他(2006)におけるアスペルガー症候群、高機能自閉症群のデータよりも低い成績である。

皮肉問題における本児の言語反応を表3に示す。本児は皮肉をすべて字義的に解釈して誤答を選択した。具体的には、問題6で紙くずだらけの部屋を「きれいにしているのね」と言われる状況では、「何で散らかっているのに、いつもきれいにしているのねって言えるんだ?」と状況と発言の齟齬をいぶかしんだ。しかし考えた末に「きれいだと思っているのかな」と字義的解釈を選択した。この様に、本児は皮肉の語用理解に顕著な困難があることが示された。

比喩問題の成績は5問中4問正答であり、これはAdachi et al. (2004)らの統制群(10歳±1.4)の成績と比較して同程度の正答数であった(表2)。比喩問題における本児の言語反応を表4に示す。一部の比喩理解において、本児は論理的に理解している様子が見られた。具体的には、問題7で「まるでチーターだ!」という表現の意図を正答したが、「まるでって付かなかつたらチーターだと思っている」と説明していた。

## 3. 考察

### 3-1. 語用能力について

本児においては語彙・知識量、言語的推論力や文法理解が年齢水準を上回っていたが、皮肉理解

に特異的な困難を示した。

本児の比喩問題に対する正答率は、Adachi et al. (2004)の統制群(10歳)と程度の正答率であった。MSSTの問3で「サッカーをやらせたら、この学校で太郎の右に出る人はいません」という比喩に答える際、本児は「右に出るっていうことは、なんか上で、なんか一番上ってこと」と答えた。このことから、「右に出る」の意味を知識として知っていることが示唆された。また、問7では「五郎くんはまるでチーターだ!」の意味を正しく選択し、「まるでって例えたんで」と説明していた。このような言語反応から、比喩問題は語彙・知識量、言語的推論力によって正答が可能であると考えられる。安立他(2006)でも、「自閉症群」の比喩成績は学年・IQと正の相関を示していた。

一方で、本児の皮肉問題の正答率は低く、比喩問題とのギャップが見られた。この傾向は安立他(2006)の「自閉症群」でも同様であった。皮肉問題の言語反応から、本児は状況と発言の齟齬を理解できず困惑している様子が見られた。MSST問6で騒がしい子どもがおとなしいと皮肉を言われる場面に対しても、「たいそうおとなしいお子さんって言うてるから、ア(行儀が悪いと言っています)はあてはまらないなあ」と結論付けていた。このように、皮肉問題において状況理解に基づいて言外の意味を汲みとる、という語用能力に未熟さが示された。

この背景には、皮肉は比喩と比較してパターン学習が難しいことが考えられる。例えば、比喩は「まるで」「右にでる」など知識による理解が可能であるが、皮肉はこのような知識による理解が困難である。従って、知識が豊富で言語的推論能力

表2 MSST テスト 結果

	年齢	性別 M/F	比喩 (5点)	皮肉 (5点)
Asperger 群*	9.8(2.0)	57/9	2.6	1.8
HFA 群*	9.4(2.0)	17/3	2.1	2.3
AD/HD 群*	9.4(1.8)	33/4	2.7	2.9
統制群†	10.0(1.4)	96/103	4.1	3.3
本児	11.3	M	4	0

\*安立他(2006)より引用

†Adachi et al (2004)より引用

表3 MSSTの皮肉問題における本児の言語反応

問題文と選択肢	言語反応 (回答所要時間)
<p>2) お母さんが家に帰ってみると、脱ぎすてられた次郎の洋服が部屋中に散らばっていました。それをみてお母さんは「次郎はいつもきちんとしているわ。」と言いました。</p> <p>お母さんは次郎のことを</p> <p>ア) きちんとしている子どもだと思っています。</p> <p>イ) <b>だらしないと思っています。</b></p> <p>ウ) 男の子だと思っています。</p> <p>エ) <b>お風呂に入ったと思っています。</b></p> <p>オ) わかりません。</p>	<p>うんと……部屋中に散らばってる？ 一つの部屋かな？ (検査者が再度問題文を読む) お風呂かな？ 「きちんとしている」っていう言葉は「だらしない」とあんまり当てはまらないし。家中だったら「だらしない」と思うけど、部屋中だったら、もしかしたらお母さんが帰って行った部屋がお風呂のところだったら、そういう可能性もある。エと思います。</p> <p>(50秒)</p>
<p>4) 今日は家族みんなでレストランに行きました。太郎と次郎は食事中も大はしゃぎでした。すると隣の席のおばさんが「たいそうおとなしいお子さん達ですこと。」と言いました。</p> <p>おばさんは太郎と次郎のことを</p> <p>ア) <b>行儀が悪いと言っています。</b></p> <p>イ) <b>おとなしいと言っています。</b></p> <p>ウ) かわいいと言っています。</p> <p>エ) 子供だと言っています。</p> <p>オ) わかりません。</p>	<p>何で大はしゃぎしているのにおとなしいって言うのかな？ だけど、「たいそうおとなしいお子さん」って言うているから、アは当てはまらないかな。(ウを見ながら) かわいいっていうのも何でおとなしいって言うのかな。それなら「かわいいですねえ」とかでも当てはまると思うんだけどな。おとなしいって言うてるのかな。だけど、大はしゃぎしてたのに何でおとなしいって言うんだらう。(2秒沈黙) おとなしいと言っている、かな。</p> <p>(48秒)</p>
<p>6) 三郎の部屋は紙くずだらけで、すわる場所もない状態でした。その部屋に入ったとき花子は「いつもきれいにしているのね。」と言いました。</p> <p>花子は三郎の部屋を</p> <p>ア) 明るいと思っています。</p> <p>イ) 狭いと思っています。</p> <p>ウ) <b>散らかっているとと思っています。</b></p> <p>エ) <b>きれいだとと思っています。</b></p> <p>オ) わかりません。</p>	<p>え？ え一何でだろう。何で散らかってるのに「いつもきれいにしているのね」って言えるんだ？ 紙くずだらけなのに。何でだろうな、掃除中なのかな。なのに友達を誘うか？ (その後沈黙。検査者が、分からなければオでも良いと伝える) いや、考えてみる。友達を家に誘って、家を片付けるやつなんているかな。ふつう遊ぶよね。汚いのにきれいっていう花子さんもどうかと思うが。きれいだと思ってるのかな本当に。分かんないな。一応、「きれいだと思っています」に入れておこう。</p> <p>(64秒)</p>
<p>8) おじいさんの家の庭は草ぼうぼうでした。庭に入ってきたおばあさんは「まあなんてきれいな庭だこと！」と言いました。</p> <p>おばあさんはおじいさんの庭を</p> <p>ア) <b>きれいだと思っています。</b></p> <p>イ) 美人だと思っています。</p> <p>ウ) <b>あれはてていると思っています。</b></p> <p>エ) 広いと思っています。</p> <p>オ) わかりません。</p>	<p>きれいだと思ってる、かな。「美人」では絶対ない。だってじん(人)じゃないもん。</p> <p>(7秒)</p>
<p>10) 清子は、ボロボロになって穴のあいている私のクツを見て、「ずいぶんと素敵なおツツですね。」と言いました。</p> <p>清子は私のクツを</p> <p>ア) 新しいと思っています。</p> <p>イ) <b>素敵だと思っています。</b></p> <p>ウ) <b>みずぼらしいと思っています。</b></p> <p>エ) 涼しそうだと思っています。</p> <p>オ) わかりません。</p>	<p>素敵だと思っている、かな。まあ、色とか柄が素敵だったかな。ボロボロになっても素敵なおツツとかあるからね。有名人のパレエシューズだったとかかもしれないし。高級なおツツだったかもしれないし。そういうクツは、ボロボロになっても素敵だね、っていう人もいると思う。</p> <p>(33秒)</p>

正答(ゴシック体)、本児の回答(○)と表わす。偶数問題が皮肉である。

表4 MSSTの比喩問題における本児の言語反応

問題文と選択肢	言語反応 (回答所要時間)
<p>1) 隣のお姉さんは、いつもきれいにお化粧をして出かけます。それを見た私の弟は、「お姉さんはお化粧で化けることができるんだね。」と言いました。 弟は隣のお姉さんのことを ア) お化けになったと思いました。 イ) たぬきに化けたと思いました。 ウ) 嫌いになりました。 <b>㊦ 別人のようになったと思いました。</b> オ) わかりません。</p>	<p>エ。自分みたいじゃないってことだから、そうだと思います。 (9秒)</p>
<p>3) サッカーをやらせたら、この学校で太郎の右に出る人はいません。 太郎は <b>㊦ サッカーが一番じゃあです。</b> イ) サッカーが一番へたです。 ウ) みんなの右側にすわっています。 エ) サッカーをしようと思いました。 オ) わかりません。</p>	<p>サッカーがじゃあ、だと思ひます。まず右に出るっていうことは、なんか上で、なんか一番上ってことだから。一番下手だと、こういうさグラフで考えると(指で横線を引く)、一番下手だと右にも左にもいるけど、一番上だと右にも左にも出てる人はいないかなと思ひます。 (検査者:ではどの答えを選びますか?)アだと思ひます。 (32秒)</p>
<p>5) 警察官は「犯人をしばらく泳がせておこう。」と言ひました。 警察官は犯人を <b>㊦ 海に連れて行って泳がせようとしています。</b> イ) 友達だと思ひています。 ウ) 自由にさせようとしています。 エ) プールに行こうと誘ひています。 オ) わかりません。</p>	<p>うーん、自由にさせておこう……犯人自由にさせるかな。絶対ない。プールに行こうと誘ひてる? 何で犯人を誘ひう? じゃあ、海に連れて行って泳がせようと思ひている。 (15秒)</p>
<p>7) 五郎はリレー競技でいつも一番になります。太郎は五郎がごぼう抜きにするのを見て「ほら、五郎くんはまるでチーターだ!」と叫びました。 太郎は五郎のことを ア) チーターだったと言ひています。 イ) ハンサムだと言ひています。 <b>㊦ 足がとても速いと言ひています。</b> エ) ごぼうを抜いていると言ひています。 オ) わかりません。</p>	<p>足がとても速いと言ひています。ウです。「まるで」って例えたんで。「まるで」って付かなかつたら、チーターだと思ひているっていうんですけどねえ。 (15秒)</p>
<p>9) おばあさんは、私の赤いホットペを見て「リングみたい。食べちゃおうかしら。」と言ひました。 私はこう思ひました。 ア) おばあさんはリングが好きです。 イ) おばあさんはリングを食べたがつています。 ウ) おばあさんは私のホットペを食べたがつています。 <b>㊦ おばあさんは私をかわいいと思ひています。</b> オ) わかりません。</p>	<p>エ。 (1秒)</p>

正答(ゴシック体)、本児の回答(○)と表わす。奇数問題が皮肉である。

が高い子どもの場合は、MSSTの比喩問題には正答できる可能性がある。語用能力を検討するには、皮肉理解がより有用であることが伺われる。

また、MSSTは状況説明などがすべて言語情報として提供されるという特徴がある。そのためMSST上で比喩が理解できたとしても、言語能力の高さで補っている可能性がある場合には、日常生活における比喩理解は十分ではない可能性があることに留意しなくてはならない。

### 3-2. 読字書字能力について

読字能力を検討するために実施した音読検査(稲垣ら, 2010)では読み時間が小学校5年生の平均水準を大きく上回り、読字困難が疑われた。しかし小学校3年生時に実施された同検査では学年相応の読み時間であり、小学校5年生では読み時間が本人の小学校3年生時と比べて1分以上遅延していた。小学校3年生時には学年相応の読み時間であっても、年齢相応に読み速度が向上しなければ、その後学年相応の速さで読むことが難しい可能性はある。しかし本児は同学年との相対的な比較ではなく、個人内の評価で小学校3年生時よりも読みが遅延し読字速度の変動が大きかったため、評価は困難であった。

このような大きな変動には、読字困難の背景に認知的な要因だけでなく、不安など情動的な要因が影響した可能性がある。日常生活における行動からも、小学校5年生で検査を実施した時期の本児は不安が高い状態であることが示唆されていた。このような不安の背景には語用能力の未熟さによるコミュニケーションの困難があるかもしれない。この他にも、小学校3年生時と5年生時では音読検査を実施した検査者との関係が異なったため(3年生時は面識のある通級指導教室担当、5年生は新規場面・人物が検査を実施した)、場所や検査者への慣れにくさが結果に影響した可能性もある。したがって読字に関しては包括的に経過を観察し、評価をしていく必要があるだろう。

書字能力については、小学校入学後から継続して困難が報告されており、当支援室で実施した書

字検査からも同様に困難さが示された。それゆえ、書字困難は不安の影響の有無とは独立して存在すると考えられる。

### 3-3. 検査結果から示唆された支援

本児の学校への不適応の背景には、言語能力の問題による日常コミュニケーションの困難と、書字困難による学習困難の影響が考えられる。

年齢が上がるにつれて、皮肉などを用いた言語でのコミュニケーションが適応に大きな役割を果たすと考えられている。本児は語用能力が未熟であるため、クラスメイトとの会話のすれ違いや、教員の指摘の意図を理解するなど、日常生活のコミュニケーションに困難がある可能性があり、それが学校への不適応に関与したのかもしれない。語用能力に弱さがある場合は「○○しないと△△できません」などの間接的な表現を用いず、「○○が終わったら△△してください」と直接的な表現にすることや、クラスメイトが婉曲な表現を使用した場合は理解を確認するなど、意図理解に注意する必要がある。

また書字の困難も学校への不適応に関与している可能性がある。本支援室で実施した検査結果からは、本児は漢字の形態想起だけでなく、不器用さによる運動出力の拙劣さが示された。本児のように知識などの言語能力が良好な場合は、支援策としてプリントの活用や、求める板書の量を削減することで内容理解への余力を作るなどの環境整備が考えられる。

## 4. 終わりに

語用理解は日常生活で円滑なコミュニケーションをとるために重要な能力であり、適切なアセスメントが必要である。標準化された検査ではないが、MSSTは得点から比喩・皮肉理解の正確さ、言語反応から理解の方法など質的な側面を検討することができる。WISC-IVやK-ABCIIなど多くの知能検査で検討される言語能力は語用能力を含んでいない。そのため、言語能力が高いと考え



られるケースでも、友人とのトラブルなど適応面の困難が示される場合には、知能検査に加えてMSSTなどを用いて語用能力を検討することが重要である。この際には、比喩理解は知識など言語能力の高さによって正答できる可能性があり、皮肉理解の結果がより有用である。

## 付 記

ご協力いただいた本児・保護者・学校の先生方・関連機関の先生方に感謝申し上げます。本稿は保護者の同意を得ています。

## 文 献

- Adachi, T., Koeda, T., Hirabayashi, S., Maeoka, Y., Shiota, M., Wright, E. C., and Wada, A. (2004). The Metaphor and sarcasm scenario test: a new instrument to help differentiate high functioning pervasive developmental disorder from attention deficit/hyperactivity disorder. *Brain & Development*, 26; 301-306.
- American Psychiatric Association. (2013). *Diagnostic and statistical manual of mental disorders* (5<sup>th</sup> ed.). Washington, DC: Author. (米国精神医学会, 日本精神神経学会・高橋三郎・大野裕 (監訳) (2014). *DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引き* 医学書院)
- 安立多恵子・平林伸一・汐田まどか・鈴木周平・若宮英司・北山真次・河野政樹・前岡幸憲・小枝達也 (2006). 比喩・皮肉文テスト (MSST) を用いた注意欠陥／多動性障害 (AD/HD), Asperger 障害, 高機能自閉症の状況認知に関する研究. *脳と発達*; 38(3), 177-181.
- 古池若葉 (2009). 子どもの語用論的側面に関するアセスメント — その現状と課題 —. *跡見学園女子大学文学部紀要*; 42, 87-101.
- Happe, F. G. (1994). An Advanced Test of Theory of Mind: Understanding of Story Characters' Thoughts and Feelings by Able Autistic, Mentally Handicapped, and Normal Children and Adults. *Journal of Autism and Developmental Disorders*, 24(2), 129-154.
- 稲垣真澄編 (2010). 特異的発達障害診断・治療のための実践ガイドライン — わかりやすい診断手順と支援の実践 —. 診断と治療社.
- 神尾陽子・行廣隆次・安達潤・市川宏伸・井上雅彦・内山登紀夫・栗田広・杉山登志郎・辻井正次 (2006). 思春期から成人期における広汎性発達障害の行動チェックリスト — 日本自閉症協会版広汎性発達障害評定尺度 (PARS) の信頼性・妥当性についての検討. *精神医学*; 48(5), 495-505.
- 神尾陽子 (2007). 自閉症スペクトラムの言語特性に関する研究 笹沼澄子 (編) 発達期言語コミュニケーション障害の新しい視点と介入理論. 医学書院, 53-70.
- 宇野彰・春原則子・金子真人・Taeko N. Wydell (2006). 小学生の読み書きスクリーニング検査 — 発達性読み書き障害 (発達性 dyslexia) 検出のために —. インテルナ出版.
- 柳生一自・橋本竜作・岩田みちる・下條暁司・室橋春光 (2015). 発達性読字障害と特異的言語障害 (文法障害) を示した女児例. 第 57 回日本小児神経学会学術集会プログラム, S 41.